

記事要約 社会へ興味

二戸市の仁左平小(吉田悟校長、児童26人)の5、6年生10人は、週末の宿題として新聞を活用したワークシートに取り組んでいる。

児童は、プラス日報を使って数日以内のデジタル版の岩手日報を読む。気になる記事を切り抜き「読んで分かったこと」「読んで思っ

たこと、考えたこと」「ふりかえり」をワークシートに記入。授業支援アプリ「ロイロノート・スクール」上に提出する。

太平洋戦争やロシアのウクライナ侵攻のほか、地域の先人・九戸政実に関する発見など、世界的に重要な出来事から身近な話題まで

児童が選ぶ記事はさまざま。「ふりかえり」には「自分の住んでいる岩手県でも戦争の時にこんな悲惨なことがあったんだと勉強になった」「新聞を読むといろいろなことがわかる」など学びを実感する感想が書き込まれている。

担任の松川奉央教諭(33)は「社

会事象に興味を持ち、自分自身とつなげて考えられるようになってい」と成長を見守る。端末の画面でデジタルの新聞記事を切り抜き、クラスメートと共有できるため「プラス日報はタブレット学習と親和性が高い」と、今後も活用していく考えだ。

児童が作成したワークシートを紹介する松川奉央教諭。記事の要約や感想が丁寧に書き込まれている。

私と+日報

輕米中

小野寺 淳教諭(43)

プラス日報を使い、防災学習に取り組んでいる。過去の記事を検索できるため、軽米町の出来事や災害の記録を効率よく調べることができる。多角的な視点で学習を深められることと、正確な資料を基にまとめる力を養えることがメリットだ。

輕米中1年

山仁 碧人さん

「調べる」を使って、軽米町内を流れる雪谷川の水害の歴史を調べた。実際に逃げ遅れた人がいたと知り、情報がとても大事だと思った。今は整備されてきれいな川になったが、昔は水害があったことを親にも教え、防災について改めて家族で考えてみたい。

先生から



生徒から



プラス日報
とは？

岩手日報社が提供する学校向け新聞活用プログラムです。児童生徒の読解力や情報リテラシーの向上を図るとともに、授業に活用できるコンテンツで先生方をサポートします。

利用できる機能は？

①デジタル版紙面の閲覧②過去約20年分の記事検索③新聞記事を題材にしたワークシート④新聞製作ソフトなど。そのほか震災復興やふるさと学習、進路学習をサポートするコンテンツを提供しています。

どう使われている？

朝学習で新聞を読んだり、行事を振り返る個人新聞作りなど多様に活用されています。2025年度当初時点で、県内の公立小中学校の約40%の学校が利用しています。

ご依頼はこちら！

「+日報」についてより詳しく知りたい方は、岩手日報社プラス日報事務局の専用フォームからお問い合わせください。

[illegible][illegible]

仁左平小の児童が書いたワークシート

